



2018年

世界栄養 報告

現状を明らかにし、栄養対策の
加速につなげる

エグゼクティブサマリー



2017年、コンゴ民主共和国ヤンガンビ

野菜を運ぶ少女たち。

© Axel Fassio/Center for International Forestry Research

エグゼクティブ サマリー

現状を明らかにし、栄養対策の加速につなげる

栄養不良は発達を阻害し、許容しがたい人的結果をもたらす世界的問題です。しかし今、栄養不良に終止符を打つ機会がこれまでになく高まっています。栄養のための行動の10年（2016~2025年）および持続可能な開発目標（SDG）が栄養不良対策を世界的・国家的に勢いをもたらし、進展を加速させています。

栄養不良の負担は依然として世界的に許容しがたい程高い一方で、進展は許容しがたいほど遅れています。栄養不良は健康障害の最大の原因です。5歳未満の子供たちは複数の負荷に直面しています - 1億5,080万人が発育不良、5,050万人が衰弱、3,830万人が過体重に苦しんでいます。一方、毎年2,000万人の新生児が低出生体重で誕生しています。成人の過体重および肥満は記録的なレベルで、38.9%の成人が過体重または肥満とされています。その範囲はアフリカから北米に広がり、若者の間でも増えつつあります。特定の栄養不良について、女性は男性より負荷が多く、生殖可能年齢の女性の1/3が貧血で、男性より肥満率が高いとされています。一方、依然として低体重の女性は数百万人に上ります。

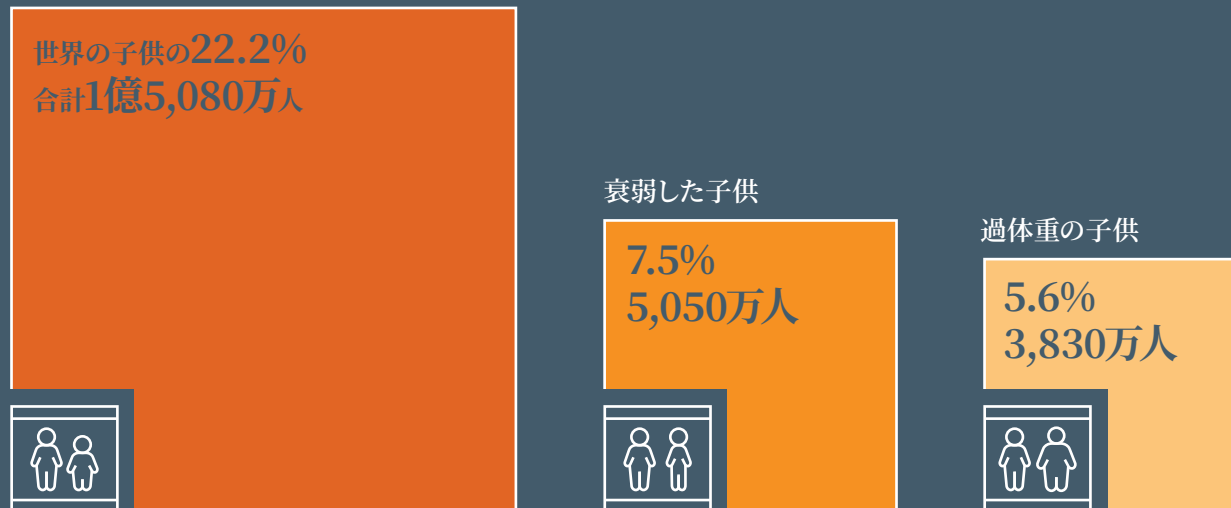
しかし、現在、栄養不良対策で大きな前進が見られます。世界的に、子供の発育不良は減少し、低体重の女性の数もわずかに減少しています。2025年に向けて栄養状況の進展を追跡するために国際社会が設定した目標について、多くの国が少なくともひとつを達成すると見られています。成果を実現するためには何が必要かに関する知識レベルもかつてないほど高まっています。より多くの条例、政策、行動、計画、目標が揃い、国際社会および各国ステークホルダーが成果を達成できる条件はかつてないほど整っています。データ面の進展により、栄養不良のあらゆる形態の負担の性質およびその原因について理解を高めることが可能になり、これにより、行動の指針やインスピレーションを提供し、進捗追跡能力の向上につながっています。

この絶好のチャンスを緊急に捉え、2030年までにあらゆる形態の栄養不良に終止符を打つというSDG目標に向かって順調に進むことが極めて重要です。2018年世界栄養報告は最新データの提供をつうじて、そのために必要な対策を明らかにするものです。なぜなら、あらゆる形態の栄養不良に終止符を打つには、取り組んでいる問題の性質を正確に把握する必要があるからです。本報告では、栄養不良の負担、集中的取組みが新たに必要な領域、あらゆる形態の栄養不良の一般的原因としての食事、栄養対策の資金調達、国際的コミットメントの5分野を中心に、既存のデータを照合し、データにおける新たなイノベーションを紹介し、今までにないデータ分析を実施しています。本報告全体で、栄養不良対策に対して取られている行動例を紹介し、詳しく説明しています。

2018年世界栄養報告はこの分析をつうじて、どこで進展がみられたか、さらに、深刻な問題が依然として存在するのはどこか - つまり、進展を確かなものにして大きなギャップを埋める上で対策が必要な領域 - を明らかにします。

栄養不良の現在の負荷は 許容しがたいほど高い

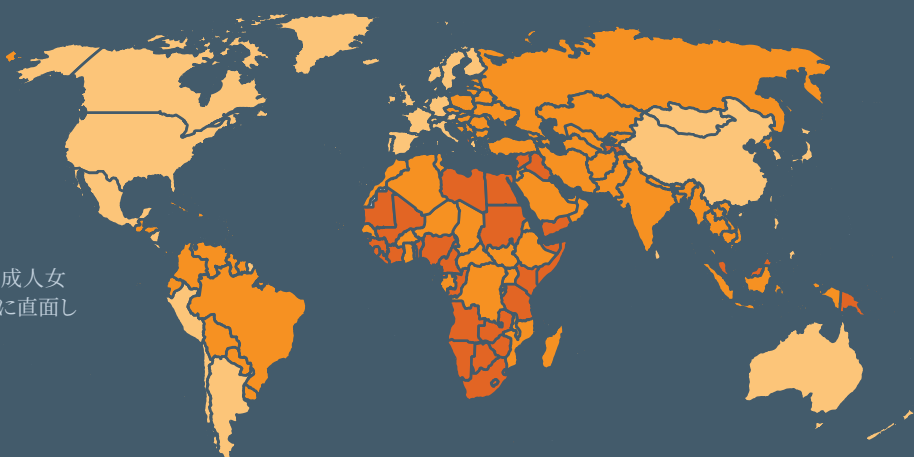
発育不良の子供（生後0～59ヶ月）



世界のすべての 国が栄養不良の 問題を抱えてい る

子供の栄養不良、成人女性の貧血、成人女性の過体重の少なくとも一つの負荷に直面している国

- 一重負荷以上
- 二重負荷以上
- 三重負荷



現在までの進展は全く十分とは言えない

世界的に8つの主要
栄養指標に前進が
見られない ...

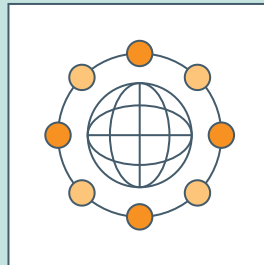


... しかし今が軌道
修正する格好の機会

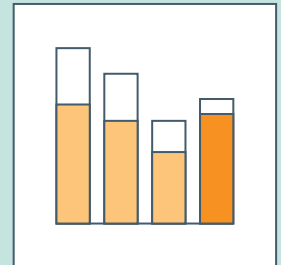
栄養不良撲滅の 態勢がこれまでになく整っている



どの政策が効果的かについての理解がかつてないほど向上



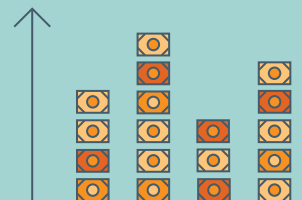
多くの国が栄養不良対策への強力な政治的意志を表明しており、我々はこれらを行動につなげる義務がある



向上した新データにより栄養不良対策に大きな変化が期待される

直ちに行動しなければ これまでの前進が台無しになる恐れがある

3: 栄養の資金調達を拡大・多様化



1: 縦割りの取り組みを解消し、包括的プログラムを策定

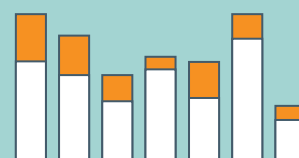


4: あらゆる場所における栄養改善のための健康的な食事の重視



5つの重要 ステップ

2: 必要なデータ及び活用能力を優先し、投資する



5: 駆動力となっている目標及びコミットメントの改善



主要所見

栄養不良の減少では一定の進展がみられたものの、その速度は極めて遅く、あらゆる形態の栄養不良に拡がるに至っていません。

- 5歳未満の子供の発育不良は世界的に減少傾向にあるものの、アフリカでは増加しています。さらに、地方レベルでの進展には大きな格差が存在します。世界の5歳未満の子供の発育不良は2000年の32.6%から2017年には22.2%にまで減少しています。人数では、1億9,840万人から1億5,080万人への減少です。アジアの子供の発育不良は2000年の38.1%から23.2%に減少し、ラテンアメリカおよびカリブ海地域では16.9%から9.6%にまで減少しています。アフリカの子供の発育不良は同期間で割合は38.8%から30.3%に減少したものの、人口増加により、発育不良の子供の実際数は増えています。地理空間データの活用により、発育不良の傾向は国内でも増加傾向にある地方から減少傾向にある地方まで大きく差があることが明らかになりました。
- 世界レベルでは、女性の低体重および貧血への取り組みは極めて進展が遅く、成人の過体重および肥満は悪化の一途をたどっており、肥満率は男性より女性が高くなっています。女性の低体重は2000年以降わずかながら減少したものの、女性（20–49歳）では9.7%、若年女子（15–19歳）の5.7%が依然低体重です。貧血は32.8%でわずかに増加しました。世界的には、過体重（体格指数（BMI） ≥ 25 ）および肥満（BMI ≥ 30 ）は2000年以降年々増加しています。女性の肥満率は男性の11.1%より高く15.1%となっています。
- 複数の国は国際的に採択された2025年栄養目標の少なくともひとつの達成に向けて順調に進んでいるものの、ほとんどの国は進展が進まず、全目標達成に向けて順調に進んでいる国は皆無です。2018年に9つの目標に対する進捗割合を、新たに32カ国のポイントを加えて評価した結果、194カ国中94カ国で少なくともひとつの栄養目標達成にむけて順調に進んでおり、さらに、44カ国がひとつの目標について、35カ国が2つの目標について順調に進んでいることが明らかになりました。目標達成に向けて順調に取り組んでいる国のうち、24カ国が発育不良、37カ国が衰弱、18カ国が発育不良と衰弱について進展が見られます。つまり、データのある国の大部分に順調な進展が見られないということになります。成人肥満目標や貧血目標の達成に向けて順調に進展している国はありません。ある国が達成に向けて順調な進展を示す目標数は最高4つで、4つの目標達成に向けて順調な国の数はわずか5ヶ国にとどまっています。
- さまざまな形態の栄養不良が互いを悪化させている現状が新たな分析でも浮かび上がってきます。国内における栄養不良の複数負荷に関する新たな分析により、国々や人びとが複数の形態の栄養不良をどの程度経験しているかが明らかになりつつあります。小児発育不良、生殖可能年齢女性の貧血、女性の過体重の3形態の栄養不良に関して一貫したデータを有する141カ国のうち、88%（124カ国）が少なくとも2形態の栄養不良を高レベルで経験しており、29%（41カ国）が全3形態の栄養不良を高レベルで経験しています。これら41カ国の大部分（30カ国）はアフリカ諸国です。1,595万人の子供が衰弱と発育不良の影響を受けて小児死亡率が上昇しており、823万人の子供が発育不良と過体重に苦しむなど、複数の負担が何百万人もの子供たちに影響を及ぼしています。

- 世界各地の危機は益々長期化し、あらゆる形態の栄養不良に対する取り組みにとって深刻な障害となっています。紛争、脆弱性、暴力、環境変化に起因する危機的状况においては、複数の栄養不良負荷の治療および予防と同時に、しばしば長期化する危機に対する栄養レジリアンスの構築が緊急に必要です。国際人道支援の86%が長期的・中期的危機の被害を受けている国々に提供されていると推定されていますが、そのほとんどは短期的プログラムの形式で実施されています。危機が長期化しているこれら地域における、複数の形態の栄養不良による深刻な負荷に対する認識は高まっており、人道支援コミュニティはより長期的かつ状況に応じたアクションを検討するべく手法を変更し始めています。しかし、持続的な栄養レジリアンスの構築には、人道支援コミュニティと開発コミュニティがより緊密に連携して、これらのもっとも脆弱かつ困難な状況における栄養不良に全面的に取り組むことが求められます。

栄養不良対策への誓約は増加するも、資金調達の道は険しく

- 国による栄養政策や栄養目標の数や範囲は増加しているものの、それらを実行するための資金調達やアクションで課題が依然として残っています。国家的な栄養政策や行動計画を策定し、栄養への取り組みを誓約する国は増えています。そのような計画を持つ国は164ヵ国で、その61%が複数部門に及びます。さらに、国が掲げる栄養目標の数も増加しており、目標の範囲も拡大してさまざまな形態の栄養不良をカバーしています：189ヵ国が少なくとも1つの栄養目標を掲げ、81%が3つ以上の栄養目標を設定しています。過体重に関して目標を掲げている国の割合は84%に増加しました。微量栄養素欠乏症に関する目標は少なく、貧血率の高い国の41%で貧血目標が設定されていません。なかでも重要な未決課題は、これら目標を達成するための計画の費用見積もり、資金調達、実行を確実に行うということです。
- 援助国は2013年の「成長のための栄養（N4G）サミット」での資金拠出誓約を達成したものの、世界的には依然として財政的ギャップが存在します。2018年、N4G援助国10ヵ国は目標達成期限より2年早く、目標額の196億米ドルを上回る合計218億米ドルを拠出しました。ミラノで開かれた2017年世界栄養サミットでは、当初からの最大援助国のうち3ヵ国が新たに4ヵ国と共に栄養に対する6億4,000万米ドルの追加援助を誓約しました。すべての財政的コミットメントはSMART（具体的、測定可能、達成可能、信頼性、適時）でした。政府開発援助（ODA）全体を見ると、肥満および食事関連NCDに関する拠出が2016年に3,250万米ドルにまで増加するなど、ささやかな前進が見られました。しかし、「栄養に限定した」拠出はとりわけ低く、必要な資金援助にははるかに及びません。
- 初期の状況としては、低・中所得国の政府が栄養により多くの国内支出を誓約しています。25ヵ国のデータを見ると、栄養への支出増加は栄養に配慮した配分が24.4%、栄養に特化した配分が8.9%、それぞれ増加したことによって押し上げられていることが分かります。各国は資金の大部分を栄養に焦点をあてた投資に支出しています。支出の度合を監視する対策を取る国は増えており、なかには地方レベルの支出度合を評価している国もあります。ただし、各国間には大きな差があり、国内支出を増やし、測定するには大幅な進展がさらに必要であることを示しています。

あらゆる形態の栄養不良に終止符を打つには食事改善の取組みが急務

- データの増加および向上により、人びとが何を食べ、食生活がいかに重要であるかがより把握できるようになっていますが、これらデータはあらゆる国および所得層において栄養目標を達成する上で食事が大きな脅威となっていることを示しています。食事に関するデータを収集・照合・分析する取組みが加速したことで、世界の人々の食生活をより把握することが可能になりました。しかし、データは人びとが適切な食生活を送っていないことを示しています。乳児の食事に関する最新データでは、母乳のみを与えられている乳児（生後6ヵ月）の割合は（2012年の37%から）41%へ微増したに過ぎず、粉ミルクの売上は急速に増加していることが分かります。最低限許容可能な食事を取っている生後6ヵ月から23ヵ月の乳幼児は5人に1人未満（16%）で、推奨される最低限の回数の食事を取っている生後6ヵ月から23ヵ月の乳幼児は全体の半分（51%）にすぎません。国、地方/都市部等の環境、所得層により差はあるものの、乳幼児や子供の食事不良は世界的な問題です。富裕レベルにかかわらず、学齢期の子供、若者、成人は精製された穀物や、糖分の多い食事や飲み物を過度に摂取しており、果物、野菜、豆類、全粒穀物といった健康によい食品を十分に摂取していません。学齢期の子供の約1/3（30.3%）は毎日果物を食べず、43.7%が炭酸飲料を毎日消費しています。23,000を超す加工食品を対象に行われた新しい分析によると、69%が相対的に栄養素に乏しく、この割合は高所得国より低・中所得国で高くなっています。
- 健康的な食事に関する政策やプログラムはさまざまな国、市、コミュニティで効果をあげているものの、全体的には総合的な取組みという点で十分ではありません。世界保健機関の栄養改善実施に関するグローバルデータベース（GINA）には、健康的な食生活を支援するために191ヵ国で実施されている1,000を超える政策が含まれています。例えば、多くの国は近年砂糖飲料税を導入し、製品改良政策と併せて、効果をあげています。大規模な食品の栄養価強化もまた進展が見られる分野ですが、同時に変化には障壁が数多く存在することを物語る領域でもあります。食事や栄養を改善するための地域・都市レベルでの取組みが増えています。集中的な多層的対策は乳幼児の食事改善や小児肥満の減少にむすびつくことが新たに証明されています。教訓を市レベルから国家レベルへと拡大し、新たに生まれつつある国際的な都市間ネットワークをつうじて共有することが可能です。しかし現時点では、集団レベルで食事を大幅に改善するために必要な総合的な対策を一括して実行した国はほとんどありません。
- 若者の栄養改善の重要性に対する世界的な関心は高まっているものの、若者の食事には一層重点的な取組みが必要です。若年女子は鉄分がより多く必要になるほか、若い年齢での結婚が若年妊娠につながったり、肥満になりやすくなるなど、依然として栄養不良に特に陥りやすくなっています。青年期は思春期の成長と脳の成熟のためにより多くの栄養が必要となります。青年期の栄養問題に対処し、健康的な食習慣をこの時期に身に付けることは、その後の成長の遅れの潜在的取戻しや、認知能力の向上、さらに非感染性疾患（NCD）にかかるリスク減少にとって重要になり得る、ということを示す証拠が世界的にますます多く発表されています。行動や研究への新たな呼びかけ、プログラム、政策は、特に食事の改善をつうじた青年期への介入方法に関する理解向上につながると期待されています。これらプログラムの多くは、より効果的な解決策を明らかにする手段として、問題を経験した若者達の声を取り入れています。

データの継続的改善も基本的なギャップが依然として残り、より効果的な行動を喚起するにはさらなる投資が必要

- データの継続的改善であらゆる栄養不良に対応するために必要不可欠な情報が手に入るようになったものの、微量栄養素欠乏症に関するデータには深刻なギャップが存在します。地理空間データ分析は、栄養不良の負担および進展の速度が国家間および国内でいかに異なるかに関する私たちの理解を大きく変容させています。この種のデータは国内の栄養不良の地方レベルの変化を地区レベルにまで細かく把握することを可能にします。データベースおよびイニシアチブの増加により食事データの収集、照合、分析、分割が進み、対策が必要なさまざまな証拠がますます明らかになっています。データはさらに青年期の栄養不良対策の重要性を浮かび上がらせています。資金面の新たな追跡方法により、栄養対策の資金がどのようにつかわれているかをより把握することが可能になると期待されます。しかし、いくつかの基本的なギャップも残っています。栄養不良の負担の性質、食事、または進展の指標を十分に把握するために必要なデータ収集を行っている国は多くありません。また、微量栄養素についても大きなギャップが存在します。あらゆる集団の微量栄養素欠乏に関する世界的な全体像を完全に把握できているとは言えません。各欠乏症は孤立して発生することはめったにありません。他の形態の栄養不良とのオーバーラップ、さらに健康や病気に対する影響に関する知識も不十分です。

進展加速に必要な5つの重要なステップ

あらゆる形態の栄養不良への取り組みおよび理解に前進が見られる今、なぜ状況がこれほど悪いのかではなく、以前より状況をはるかに把握しているにもかかわらず、状況が改善しないのはなぜか、という厄介な疑問が浮かび上がります。2018年世界栄養報告の所見は、あらゆる形態の栄養不良に終止符を打つという2030年目標を達成するには、5つの重要なステップに沿って思考・行動する必要があることを示しています。これらは目新しいアイデアではなく、示された証拠に基づく常識です。真に状況を改善するなら、これらをいかに重視することが大切かがデータにも表れているように、何年にもわたり繰り返し行う価値があるものです。

1:さまざまな形態の栄養不良の縦割りの取組みを解消

データは、さまざまな形態の栄養不良は共存しているものの、異なる速度で取り組みが行われ、集団により異なり、さらに、いろいろな形で互いにオーバーラップしていることを示しています。このため、統合的かつ団結的なアプローチでこれら問題に取り組むことが求められます。人道支援、肥満、NCD、微量栄養素など、さまざまなコミュニティが連携し、あらゆる負荷に効率的かつ効果的に対処しなければなりません。ひとつの形態の栄養不良に取り組むことは別の形態の栄養不良に取り組むことにつながります。政府、人道支援コミュニティ、栄養コミュニティは、一形態の栄養不良を対象にしてこれまで行ってきた取組みが他の関連する形態の栄養不良にも対処できるよう拡大または変更できるかどうかを評価すべきです。例えば、後年における肥満やNCDへの対応のための若年期の低栄養への介入がこれにあたります。十分でないことも多いリソース、さまざまな専門性、革新的かつ多様なツールやアプローチをブールすることで、栄養に関するアクションがさまざまな形態の栄養不良に同時に効果を発揮する、目覚ましい変化へと結びつく可能性があります。

2:必要なデータおよび活用能力を優先し、投資する

誰がなぜ栄養不良に苦しんでいるのかを適切に把握しなければ、インパクトのある結果につながる行動は計画できません。2018年世界栄養報告にもあるように、データ収集・照会・分析における近年の前進は、データへの投資がいかに栄養面の対策に関する情報収集に役立つかを示すものです。政府、国際機関、研究機関、学術機関は栄養におけるデータ革命を今後も継続していくことが求められます。誰が、どこで、どのような理由で、どの形態の栄養不良に見舞われているのかに関する地理空間データはインパクトある行動の策定においてあらゆる意思決定者の助けとなるでしょう。貧困層、女性、若年女子、子供、周縁化された又は地理的に孤立した地域に暮らす人々など、栄養面で脆弱な人口に関するデータは不可欠です。食事データの収集および分析を今後も改善する取り組みを続けるとともに、微量栄養素データにおける驚くべきギャップを埋めることが急務です。しかし、データの収集および分析だけでは十分ではありません。あらゆるステークホルダーがデータを活用して根拠にもとづいた意思決定を行う能力を持つことが必要です。データコミュニティは投資先や介入先を実際に決定する政策立案者、企業、NGOにとって解釈しやすいデータづくりを求められています。

3:栄養の資金調達を拡大－これまでの進展を足がかりにした多様化・革新

毎年、世界栄養報告は栄養のための一層の資金調達を呼びかけています。結局のところ、十分かつ適切な資金があらゆる形態の栄養不良に投資されなければ、進展は望めないのです。今年の報告のデータは進展がまばらであったことを示しています。この進展を足がかりにして、引き続き国内投資を増やし、世界の援助国はODAをつうじた投資を継続することが求められます。新たな政策マーカ―や拡大版DAC債権国報告システム（CRS）を活用し、資金の流れの透明性と追跡可能性を確保する必要があります。資金は栄養計画が実際に実施されることに重点を置いて投資される必要があります。同時に、進展にはさまざまな革新的な形態の資金調達も必要になります。政府や多国間機関、慈善団体、富裕投資家など、リソースの流れをコントロールする当事者は、栄養対策を資金援助するための革新的方法を見出し、そのための組織的・人的能力を提供する必要があります。

4:健康的な食事に関するアクションを喚起－国際的な取り組みを促し、世界的な問題に対処する

2018年世界栄養報告で示されたデータは、乳幼児、子供、若者、成人の食事の質の低下が許容しがたいレベルにあることを示しています。最善に及ばない食事は世界的に栄養不良、病気、障害、死亡の主なリスク要因となっています。そして、これらは国や人口グループを問わず、あらゆる場所で見られる問題です。政府や企業は食事に関連する制度や環境が全ての人にとって安価で、アクセスしやすく、好ましい健康的な食事を提供するように、総体的な行動対策を実行する必要があります。地域社会、都市、都市ネットワークによる主導的取り組みを拡大しなければなりません。あらゆる場所での成功例から学び、障壁を取り崩す必要があります。

5:あらゆる形態の栄養不良に終止符を打つというコミットメントを実施・改善－世界的な栄養目標の達成には野心的かつ変容的アプローチが必要

加盟国が一貫して報告・実行する、インパクトを生み出すためのSMARTなコミットメントのみが、あらゆる形態の栄養不良に終止符を打つという目的を満たします。東京で開催される2020年N4Gサミットは今年の報告のデータで示された課題やチャンスに応え、支援国、各国政府、企業といった国際社会があらゆる形態の栄養不良に終止符を打つための誓約を改めて行い、責任を持ち、不可欠な対策を講じるための機会を提供します。

2018年世界栄養報は現状を明らかにし、栄養対策の加速につなげるものです。

現在の栄養不良の負担は許容しがたいほど高い一方で、進展は許容しがたいほど遅れています。

世界の全ての国が影響を受け、各地での進展を阻害しています。

世界的な取り組みは順調とはいえないものの、栄養不良撲滅の可能性、そして行動する義務はかつてないほど高まっています。



globalnutritionreport.org

Follow us on Twitter



@GNReport

Like us on Facebook



/globalnutritionreport

本サマリーは2018年栄養報告の著者により作成されました。

これは査読済み発行物です。本報告書の意見はすべての著者の意見であり、必ずしも開発イニシアチブ貧困調査 (Development Initiatives Poverty Research Ltd) または2018年世界栄養報告に関わるパートナー組織の意見を代表するものでも、これら組織によって支持されたものではありません。

Copyright © 2018:開発イニシアチブ貧困調査